

53th

主 催／上越交響楽団



上越交響楽団

第53回定期演奏会

指揮／吉井俊哉

会 場／リージョンプラザ上越 コンサートホール
日 時／2003年3月29日(土)
18時開場 18時30分開演

Program

ストラビンスキー:管楽器のための交響曲

Igor Stravinsky: Symphonies of wind instruments

J.S.バッハ:2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043

Johann Sebastian Bach: Double Concerto in D for Two Violins, BWV1043

1楽章:Vivace

2楽章:Largo ma non tanto

3楽章:Allegro

第1ソロ/岩田貴守

第2ソロ/Karen McMonagle (カレン・マクモナグル)

ラヴェル:バレエ音楽「マ・メール・ロア」

Maurice Ravel: Ma Mere L'oye Ballet

1.前奏曲

2.紡ぎ車の踊りと情景

3.眠りの森の美女のパヴァーヌ

4.美女と野獣の対話

5.おやゆび小僧

6.パゴダの女王レドロネット

7.妖精の園

ビゼー:交響曲 八長調

Georges Bizet: Symphony in C

1楽章:Allegro vivo

2楽章:Adagio

3楽章:Allegro vivace/Trio

4楽章:Allegro vivace

●曲目解説

ストラビンスキー:管楽器のための交響曲

ロシア生まれの大作作曲家ストラヴィンスキーは、「火の鳥」「ペトルーシュカ」「春の祭典」の三大バレエ音楽に代表される大編成で躍動的な音楽を完成させた後、簡潔で抽象的な音楽へとその作風を変えていきました。「管楽器のための交響曲」は「兵士の物語」「ブルチネルラ」と並ぶこの時期の代表的な作品です。

この曲は1918年に亡くなったドビュッシーの追悼曲を音楽雑誌から依頼されたことをきっかけに制作が開始されました。凝縮された厳粛さを持つコラールがまず先にピアノ曲「クロード・ドビュッシーの墓碑」として発表され、そのコラール部を後半とし、さらに前半部を加えた全曲は1920年(ストラヴィンスキー38歳)に完成し、翌1921年6月10日、セルゲイ・クーセヴィツキーの指揮によりロンドンで初演されています。初版時には24名の管楽器による編成で書かれていますが、1947年には作曲家自身により楽器編成など一部が改訂され、新版ではピッコロ、アルトフルート、F管アルトクラリネットが除かれた一般的な3管編成となり、演奏者も23名となっています。本日はこの1947年版を用いて演奏いたします。

(Ob:藤原 満)

J.S.バッハ:2つのヴァイオリンのための協奏曲

この曲は、バッハがケーテン宮廷に仕えていた30代に作曲されたと考えられています。バッハのケーテン時代は、最初の妻を病気で失う悲劇に見舞われながらも、アンナ・マグダレーナと再婚し、その生涯の中でも経済的にも恵まれ、創作意欲も充実していた時期にあたります。この時期にバッハは、ブランデンブルク協奏曲、無伴奏ヴァイオリンの為のソナタとパルティータ、無伴奏チェロ組曲、平均率クラヴィア曲集第1集などの代表作を生み出しています。

この曲の特色は、バッハらしく構成が緊密に書かれており、緊張と弛緩の効果が非常に巧みに用いられている点です。また、快活な第1楽章、のどかで美しい第2楽章、緻密な第3楽章とどの部分を取っても素晴らしい音楽があふれてきます。

本日の演奏につきましても、個性の異なる2人のソリストの楽器の音による対話と調和、それに呼応しながらサポートをするファーストヴァイオリンとセカンドヴァイオリン、内声を充実させながら独自のリズムを刻むヴィオラ、オーケストラの音の土台を支えながらもヴァイオリンと同じ主題を弾かされたりするチェロ、コントラバス、さりげなく音色の色彩を増やしてくれているチェンバロなど様々な聞き所があります。(正確にはある予定(笑)ですので、じっくりお聞きいただければと思います。)

(ソロVn:岩田貴守)